

⑤ 飲 酒

愛知県の状況

- ★ 「生活習慣病のリスクを高める量の飲酒（男性：ビール中瓶2本以上、女性：ビール中瓶1本以上）をする者」は、男性が約6人に1人、女性が約30人に1人となっています。
- ★ 毎日飲酒する者は、男性が約3人に1人、女性が約15人に1人となっています。

基本的な考え方

お酒は古来より祝祭や会食など多くの場面で飲まれるなど、私たちの生活・文化の一部として親しまれてきました。適度な飲酒は、コミュニケーションを円滑にし、リラックスすることで、ストレスの解消などに効果がありますが、過度の飲酒は、肝臓機能の低下や高血圧、脳血管疾患など、多くの生活習慣病のリスクを高める要因となります。また、未成年者の飲酒や妊娠中の者の飲酒は、自らの身体に悪影響を及ぼし健全な成長を妨げるほか、胎児へも発育障害などの害を及ぼします。

さらに今日では、飲酒は健康問題のみならず家庭内暴力や虐待、飲酒運転による被害など、大きな社会問題の原因ともなっていることから、未成年者への飲酒防止対策の徹底や適正飲酒の普及啓発などにより、県民の飲酒習慣や社会環境の改善に取り組むことが必要です。

重点目標

ア 生活習慣病のリスクを高める飲酒の防止

項 目	指 標	現 状 値	目 標 値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の減少	生活習慣病のリスクを高める量(男性40g以上、女性20g以上)を飲酒している者の割合の減少ー男女	男性 16.4% 女性 3.6%	男性 15.0%以下 女性 3.0%以下	男性 15.3% 女性 7.5%
		平成 24 年愛知県「生活習慣関連調査」	平成 34 年度	平成 22 年厚労省「国民健康・栄養調査」
② 妊娠中の飲酒をなくす	妊娠中の者の飲酒割合の減少	2.3%	0%	8.7%
		平成 23 年度愛知県「母子保健報告」	平成 34 年度	平成 22 年厚労省「乳幼児身体発育調査」

【目標値の考え方】

- ① 第1次計画の最終評価では男女とも多量飲酒者の割合は悪化し、目標を達成できなかった。目標値は、男性は国の現状値と比較すると1.1%高いため、国に近づけることを目標とする。また、女性は国と比較すると相当低値であるため、男性の減少率(8.5%)の低下を目指す。
- ② 妊娠中の飲酒は妊婦自身の健康リスクを高める他、胎児にも悪影響を及ぼす。よって妊娠中の飲酒をなくす(0%)ことを目標とする。

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考) データソース
		データソース	目標年次	
③ 未成年者の飲酒をなくす	16～19歳の飲酒をしている者の割合の減少ー男女	男性 16.3% 女性 10.2%	男性 0% 女性 0%	中学3年生 男性 10.5% 女性 11.7% 高校3年生 男性 21.7% 女性 19.9%
		平成24年愛知県「生活習慣関連調査」	平成34年度	平成22年厚生労働科学研究費による研究班の調査
【目標値の考え方】				
③ 平成24年愛知県生活習慣関連調査において「過去1か月間に1回でも飲酒した者」を指標とし、未成年者の飲酒をなくす(0%)ことを目標とする。				

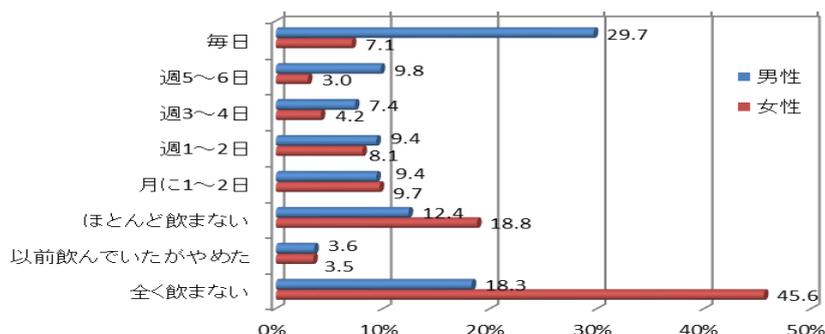
- 平成24年愛知県生活習慣関連調査によると、「¹⁹生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をする者」の割合は男性16.4%、女性3.6%となっており、全国と比較すると男性は若干高い状況です(平成22年厚労省「国民健康・栄養調査」男性15.3%、女性7.5%)。
- がん、高血圧、脳出血などアルコールに関連した健康問題や飲酒運転を含めた社会問題の多くが、²⁰多量飲酒者に起因すると考えられるため、アルコールによる健康影響や適度な飲酒量など、正確で有益な情報の提供が必要です。そのため、保健医療サービスに従事する者がアルコール関連問題の低減に向けた十分な情報提供や適切な支援が行えるよう、これらに従事する者の資質向上に努めることが重要です。(図1)

主な酒類の換算の目安

お酒の種類	ビール (中瓶1本 500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー・ ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(25度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
アルコール度数	5%	15%	43%	25%	12%
純アルコール量	20g	22g	20g	36g	12g



図1 飲酒頻度(成人・性別)



(資料:平成24年愛知県「生活習慣関連調査」)

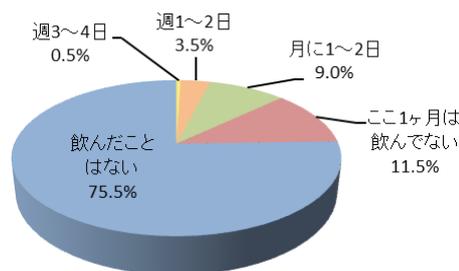
¹⁹ 生活習慣病のリスクを高める飲酒量:1日の平均純アルコール摂取量が男性で40g、女性で20g以上と定義。

²⁰ 多量飲酒者:1日の平均純アルコール摂取量が60gを超える飲酒者と定義。

- ・ 一般的に女性は男性に比べて、アルコールによる健康障害を引き起こしやすく、さらに妊娠中の飲酒は、²¹胎児性アルコール症候群や発育障害を引き起こします。これを予防する安全な飲酒量は不明であるため、妊娠中の者はアルコールを断つことが求められます。
- ・ 平成 23 年度愛知県母子保健報告によると、「妊娠中の者の飲酒者」の割合は、2.3%となっています。妊娠中の飲酒防止対策は、妊婦本人の努力だけでなく、そのような女性が飲酒しないよう、周囲の者が理解し支援する体制づくりも重要です。
- ・ 未成年者の身体は発育・発達過程にあり、アルコールが身体に悪影響を及ぼし健全な成長を妨げるほか、臓器機能が未完成であるためアルコールの分解能力が低いため、急性アルコール中毒や臓器障害を起こしやすくなります。

・ 平成 24 年愛知県生活習慣関連調査によると、「未成年者(16 歳から 19 歳)で飲酒をしている者」の割合は男性 16.3%、女性 10.2%となっています。未成年者の飲酒は法律で禁止されていることから、健康問題のみならず規制も含めて、学校・家庭・地域などあらゆる場面で対策を講じることが必要です。(図2)

図2 未成年者の飲酒状況(16～19 歳)



(資料:平成 24 年愛知県「生活習慣関連調査」)

環境目標

イ 飲酒防止対策の充実

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
① 未成年者の飲酒防止対策に取り組んでいる市町村の増加	未成年者の飲酒防止対策に取り組んでいる市町村数の増加	9市町村	54市町村 (100%)	—
		平成 24 年愛知県「市町村実態調査」	平成 34 年度	—
② 妊娠中の飲酒防止対策に取り組んでいる市町村の増加	妊娠中の飲酒防止対策に取り組んでいる市町村数の増加	47市町村	54市町村 (100%)	—
		平成 24 年愛知県「市町村実態調査」	平成 34 年度	—
【目標値の考え方】				
①② 未成年者及び妊娠中の飲酒防止対策のためには、学校教育のみならず家庭や地域を巻き込んだより包括的な教育や働きかけが必要であることから、目標は全市町村(100%)とする。				

²¹ 胎児性アルコール症候群:妊娠中の母親の習慣的なアルコール摂取によって生じるとされる先天性疾患。妊婦のアルコール摂取量とその摂取頻度により、生まれてくる子どもに知能障害が現れることがある。

- ・平成24年愛知県市町村実態調査によると、「未成年者の飲酒防止対策に取り組んでいる市町村」は9市町村、「妊婦への飲酒防止対策に取り組んでいる市町村」は47市町村となっています。未成年者や妊婦の飲酒をなくすには、教育が重要であるほか、家庭や地域、関係者を巻き込んだより包括的な取組が必要です。(図3、4)

図3 未成年者の飲酒防止対策の実施状況(54市町村)

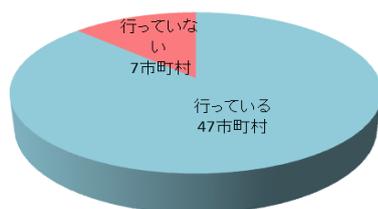


(資料:平成24年愛知県「市町村実態調査」)

<主な実施内容>

- ・学校への出前講座の実施
- ・学校教育と連携した健康教育の実施
- ・啓発資料の配布
- ・啓発イベントの開催 等

図4 妊婦への飲酒防止対策の実施状況(54市町村)



(資料:平成24年愛知県「市町村実態調査」)

<主な実施内容>

- ・母子健康手帳交付時に個別、集団指導を実施
- ・妊婦訪問の際などに個別指導の実施
- ・アンケートで「飲酒あり」の者への電話指導 等

本県の取組と役割

- ◎ 飲酒による健康影響や「節度ある適度な量の飲酒」など、正確で有益な情報の提供を行います。
- ◎ 未成年者や妊婦の飲酒が健康にもたらす影響について、啓発活動を推進します。
- ◎ 地域、家庭、学校などにおける飲酒教育を支援します。
- ◎ 飲酒の無理強いはしない、未成年者には飲酒をさせないなど、飲酒マナー向上への取組を行います。